

日本労働年鑑 戦後特集(第22集)

The Labour Year Book of Japan post war special ed.

第四篇 無産政党運動

第一章 日本社会党

十二 社会党内閣の成立と四党政策協定

四月総選挙の結果代議士百四十三名を獲得して第一党となつた社会党は総選挙終了後始めて中央執行委員会を開き「総選挙の結果現れた第一党の責任を痛感して、救国の挙国体制の実現にまい進する」旨を決定した。かくして社会党は政局收拾にのり出すことになり、五月八日には片山、吉田会談 九日には社会党＝片山、自由党＝吉田、民主党＝蘆田、国民協同党＝三木の四党首会談が行われ、閣僚選出の比率並に四党政策協定が成立をみるにいたつた。

五月一二日第一回四党幹事長会談に社会党が提示した政策協定は次の通りである。

社会党の協定案

後継内閣の危機突破政策は現実に即した超党派的でなければならぬ。現に去る三月二十二日付の吉田首相あてマックアーサー総司令官の書簡には、

現情勢の要求する総合的一連の経済統制を展開実施するために急速かつ強大な措置をとることが絶対に必要である。本年経済目標はその規模において国家的であり、一部局の利害を超越し従つて超党派のべきものである。

と記されているが、われわれはさしあたり各党の政策協定の基本線を左のごとく定めることを提議する。

一、経済危機突破のために総合的な計画に基く国家統制を必要とする。

二、生産増強のために超重点産業政策をとり、重要基礎産業は民主化された国家管理に移す

三、産業再建は経済安定本部を拡大強化し、企業者と労働者の自主的にして積極的な協力のもとに行われることを必要とする。

四、インフレ克服は健全財政主義を堅持し、かつ金融統制を行うとともにインフレおよび利得者のぎせいと負担においてこれを行う。

五、賃金および価格を確固たる統制下におき、不足する必需品については厳格な割当て配給計画を実施しつつ国民生活の安定をはかる。

六、商業再建と民生安定とのために特に重要な食糧問題解決のため努力する。

四党政策協定

一、経済危機突破のため現在の経済組織を対象とする総合的な計画に基き必要なる国家統制を行う。

二、生産増強のために超重点産業政策をとり、重要基礎産業は必要に応じて国家管理を行う。但し国家管理は官僚統制方式廃して民主化されたものとする。

三、産業復興は企業家と労働者の自主的にして積極的協力のもとに行われることを必要とする。

四、インフレ克服のため健全財政主義を堅持し、かつ必要なる金融統制を行う。

五、インフレ克服に当つては、インフレ及びヤミ利得者の負担を重視する。但し新円封鎖および国債利払の停止等は行わず。

六、賃金および価格を確固たる統制下におき、不足する必需品については厳格なる配給割当計画を実施して国民生活の安定を期す。

七、食糧問題解決のため肥料、漁具その他農、漁業用必要物資を確保して食糧増産を図ると共に供出制度を速かに改善し完全供出を図る。

八、産業再建と民生安定のためにヤミ取引ぼく滅に万全の措置を講ずる。

九、危機克服は国民各自の救国的自覚と責任によることを痛感し特に道義の高揚と文教の刷新をはかる。

片山総理大臣は六月三日社会党中央執行委員長の名において、全国の社会党員に告ぐの書を発表、全党員の奮起と自戒を要望した。

全党員に告ぐ

親愛なる全国の党員諸君

私は意義ある第一回国会において内閣総理大臣に指名され、五月三十一日組閣を完了しました。これひとえに諸君の涙ぐましき協力支援のたまもので感激にたえません事は成る日に成るに非ず同志諸君の幾久しき忍苦の後を顧みて感慨うたた禁じえざるものがあります。

同志諸君

日本再建のかぎはわれわれの手ににぎられました。民族の興亡国家の盛衰はわれわれの一挙手一投足にかかつております。私は責任の重大なるを痛感し、閣僚諸君と共に日夜国務に尽すい致しておりますが、日本再建のためにはインフレの防止、生産の増強、民生の安定、道義のこう揚、文教の刷新等いくたの難問題を解決せねばなりません。それはひとり政府の力のみをもつてしては如何ともしがたく、全国民一致の協力にまたねばなりません。

私はすでにこの点を強調し、全国民に訴えたのでありますが、特に党員諸君は政府と

共に率先垂範、施策のしん透にけんめいの努力をはらわれんことを懇請する次第であります。特にこの際黨員諸君の注意を喚起したいことは党紀肅正の問題であります。従来地位を獲た者は往々にして不その態度をとり、専い横暴その地域を利用して自己の名利をはかり、ために世人の反感を買い、ついに自らを破滅に導き害を社よくに及ぼし罪を後世に残したる例は枚挙にいとまがありません。軍閥、財閥、官僚さては政党等々われわれはつとにこれを見聞し、かつ身を以てその暴挙と闘つて来たのであります。しかるに今やわれわれは政権を掌握しました。あらゆる誘惑の魔手はわれわれの身邊をとりまき、跳躍の機会をねらつております。もし万一戒心を怠らんか、たちまちにしてそのしゆうりよとなり、かくて一般の信望を失つし、今日の歡喜はきん花一朝の夢、明日の奈落の苦惱と化し、幾十年の努力も水ほうに帰するのは火をみるよりも明らかであります。ローマは一日にしてならず、日本再建は容易の業ではありません 私は異常の決意を以て国難打開に精進せんとするものであります。

黨員諸君、よろしく世紀創造者たる自覚に徹し、いやしくも世の指弾をうくるが如きことなきよう厳に自肅自戒、政府を激励べんたつし、祖国かい興の偉業にてい身されんことを切望する次第であります。

日本労働年鑑 第22集／戦後特集
発行 1949年8月15日
編著 大原社会問題研究所
発行所 第一出版
2000年2月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 戦後特集(第22集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
